

第2回 川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和3年(2021年)10月10日(日)9:30~12:00
場所	川口中学校 被服室
出席者	参加者:荒井、稲原、大石、白鳥(豊)、白鳥(信)、高野、田野倉、外山、内藤(佳)、内藤(妙)、内藤(ト)、中尾、中村、平井、古田、安田、山口 法政大学:関司教授 社会福祉協議会:田中 高齢者あんしん相談センター川口:小林、大田 高齢者あんしん相談センター恩方:勝野、長内 第1層生活支援コーディネーター:今泉 八王子地域 PAL-ETTE:塩澤 川口中学校:鷺尾校長 資産管理課:高田、小林、西村 地域教育推進課:高橋、持田 未来デザイン室:野田、安齋、橋本、牧瀬 RPI:笠原、伊藤、岩崎
見学者	八王子未来 CAN-VAS:石井、福田
配付資料	・第2回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 地域カルテ(構成案) ・資料2 川口中学校区地域カルテ(レイアウト案) ・資料3 中学校区別ワークショップの検討結果 ・資料4 川口中学校区における地域づくり推進会議等のスケジュール(案) ・追加資料 第2回川口中学校区地域づくり推進会議 事前検討資料まとめ ・追加資料 八王子市の公共施設マネジメント

1. 開会

- ・未来デザイン室から挨拶。

2. オリエンテーション

- ・関司教授から挨拶とゼミ学生の参画などについて説明。

3. 議題

(1) 地域づくりを推進していくポイントを知ろう

岡山県の農山村地域の事例の紹介を交えて、地域づくりを推進していくポイントを関司教授から説明。

主なポイントは以下のとおり。

- ・推進会議を通じて自分の身のまわりから少し広げて考えることで、地域づくりの可能性が広がる。
- ・困っていることだけでなく、地域への誇りや愛着などの気持ちを大切にすること。愛着を持つ人が一人でも増えるようお互いの思いを「足し算」して取り組むことが大事。
- ・アンケートなどを通じて、地域の人がどんな思いを持って暮らしているかを知ること、今後の方向性が決めやすくなる。

- ・事業を誰がやるかの議論になりがちだが、まずはみんなのできることから取り組むことが大切。
- ・学生など若い世代が地域に関わることで会議が円滑になる。地域に関わっていくことで学生の学ぶ機会としたい。5月に学生が川口中学校区の調査を行ったので、その成果を次回の推進会議で報告する。

参加者の主な意見

- ・同じ川口中学校区でも、地域によって、高齢化率のばらつきや地理的条件が異なるなど多様な地域性が存在する。そうした多様な地域性をふまえながら、どういったかたちで川口中学校区の地域づくりを進めていけばよいのか。

地域性の違いがあるからこそ、共通する地域課題に対して、地域を越えて手を携えて取り組んでいくことが求められる。例えば、河川付近の土砂災害などへの対応は、被害が想定されやすい下流域の住民だけで取り組むのではなく、上流域の住民も含めた取組が必要になる。今後、そうした他の自治体の事例も御紹介したいと思うので、ご参考にしていただきたい。(図司教授)

(2) 地域カルテの構成を検討しよう

資料 1(地域カルテ(構成案))、資料 2(川口中学校区地域カルテ(レイアウト案))をもとに地域カルテについて事務局から説明し、参加者からいただいた意見は、次回以降の資料作成に活かしていくことで整理した。主な意見や質疑応答の内容は、以下のとおり。

【情報収集】

- ・会議参加者のネットワークを通じた周知、情報収集では情報に偏りが出る。20～30代などの意見も含めた方がよいのではないかと。学校や保育園を通じて保護者に呼びかけるなど、方法は工夫した方がよい。アンケートの目的は、推進会議に参加していない地域に関わる多くの皆様の意見を取り入れ、地域カルテの内容を充実させることである。各団体のネットワークを活用してアンケートを実施することで、幅広い意見を聴取することができる。(未来デザイン室)
- ・アンケートはとても良い。地域づくりでは、愛着や自信を共有して熱量を上げていくことが大切なので、そのための時間をより多く設けたい。「長く住みたい」「引っ越してきたい」「出て行く人が戻って来やすい」という3つの条件を備えることで、人口の増加が見込まれるのではないかと。地域の魅力は、転入者からのほうが見えやすいため、転入者の意見を聞くほか、アンケートの対象を保護者ではなく子どもに聞いてみるのもよい。
- ・同じ中学校区内でも、市街化調整区域と市街化区域があり、人口構成も違う。今後の地域を考えるには、若い世代や子ども達がここに住み続ける上で何がよいのか意見をもらうことが必要。
- ・八王子市の別の所管で実施した大学生アンケートでは、八王子市に住みたい・働きたい人が少なかった。20代～30代が地域を支えていくにあたり、どうしたら若い世代が住み続けたいかを探り下げて考えることが大切。法政大学の学生にもぜひ御意見を伺いたい。
- ・アンケートは選択式をメインに設計し、回答してもらいやすくする。

(3) 地域の将来ビジョンを検討しよう

資料 3 (第2回中学校区別ワークショップの取りまとめ内容)を参考に、地域の将来ビジョンの検討を行った。ワークショップで検討した「地域のありたい姿」と事前回答を踏まえ、大事にしたいキーワード、ポイントを確認。次回の推進会議で地域の将来ビジョンの仮決定を行う予定。

・共通するキーワード

「自然」

「子どもから大人まで」「助け合い」「横のつながり」

「住み続けられる」

・新しい要素

若い力が戻ってくるために何が必要か、各世代それぞれが楽しめる

(4) アクションプラン(課題解決等に向けて必要なこと)を検討しよう

3つのテーブルに分かれてアクションプランの検討を行った。地域で連携して取り組んでいきたいことを書き出した。主な意見は以下のとおり。なお詳細は、別紙(第2回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容)に記載。

参加者の意見

- ・資源や人を結び付けるプラットフォームが必要。
- ・よそから来た人、若い人、活動に関わりない人も巻き込みながら取組を進めることが必要。
- ・地域のありたい姿を実現するためには、地域活動を「担う場」「担う人材」「時間」「お金」なども具体的に考える必要がある。
- ・地域づくりの基本となるプラットフォームが必要。地域の担い手が減少する中で、体制構築を進める必要がある。
- ・地域づくりを支える人材が必要、そのために地域にある人材や才能を発掘し、それを発表できる場をつくる。
- ・地域の中に必要なスキルを持った人をつなぐネットワーク、情報をつなぐネットワークが大切。
- ・住み続けたい地域にするには、住みやすいまちの基本である安全・安心、公共交通の利便性、防犯、災害対策などのインフラの整備も必要。
- ・今ある教育環境や子育て支援を拡充し、子育てしやすい地域にしていく。子育て家庭への見守り、子育てを地域で支える人や場づくりも。
- ・地域ならではの豊かな自然を活かした子どもから大人まで楽しめる場、お店などにぎわいがあれば活力につながる。
- ・地域の将来ビジョンの検討に時間をかけず、まずはできることから実践する、そのための官民協働の組織をつくる。
- ・地域の中で支えあう考え方、仕組み = 「近助」が大切。子育て支援、高齢者の見守りや送迎などを近助で取り組む。
- ・地域の中に自由に集まれる場所がない(児童館、図書館、高校・大学生が勉強できるカフェ、塾、子育てサロン等々)。地区内にたくさんある空き家を活用して集まれる場所にすれば、いろいろな活動、いろいろな世代同士が自然に横につながって助け合いになる。
- ・10代、20代は外に出て刺激を受ける年代なので、30代をターゲットに移住をアピールする(子育て環境や支援の手厚さ、自然の豊かさなど)。市内に高校や大学が多く、教育環境が整っていることもアピールできる。子育てが落ち着き、80代まで安心して住み続けられるためには、買い物や交通などの生活サポートを地域の中で支えあう仕組みが必要。

(5) 地域づくり推進会議に関する意見交換

未来デザイン室から、地域づくり推進会議における団体との情報共有や、参加者に関する考え方を説明。これに対する参加者の意見は以下のとおり。

参加者の意見

- ・農福連携で活動している人に推進会議への参加について声をかけたが、参加には至らなかった。推進会議に誰もが参加したいと思えるよう、会議体の体制などを整備するとともに、地域全体に活動状況を周知していく必要がある。

(6) 公共施設の現状を知ろう

追加資料(八王子市の公共施設マネジメント)に沿って、資産管理課から公共施設の現状を説明。
説明概要は以下のとおり。

- ・公共施設の事故事例を紹介。
- ・人口減少・超高齢社会に伴う税収の減少や社会保障費関係費の増加により、公共施設のための一般財源が少なくなることが予想され、老朽設備の更新など適正な施設の維持管理が課題となっている。
- ・このような現状を踏まえて、八王子市公共施設マネジメント基本方針及び公共施設総合管理計画に基づき公共施設マネジメントに取り組んでいく。

4. その他

(1) 図司教授による総括。概要は、以下のとおり。

- ・人の流動性が大事。若者を送り出す側の大人がよい背中を見せると、地域に帰ってくる。
- ・将来、地域に戻ってきて欲しい住民像を迎え入れる側の地域住民が明確に設定し、選択して迎え入れることも必要。
- ・この推進会議には、思いを持って活動する人が集まっており、地域活動の新たな受け皿・基盤として推進会議が機能していくことを期待したい。できることにすぐにチャレンジするための環境が整っていくと良い。

(2) 第3回推進会議の開催日時等の確認

- ・開催日時:10月31日(日)10時
- ・開催場所:松枝小学校体育館

(3) 連絡事項

第3回推進会議の前に、学生とオンラインでの意見交換を予定している。(10月22日(金)15時30分から) PC、場所を市役所内に用意するので、参加希望者は15日までに連絡してほしい。

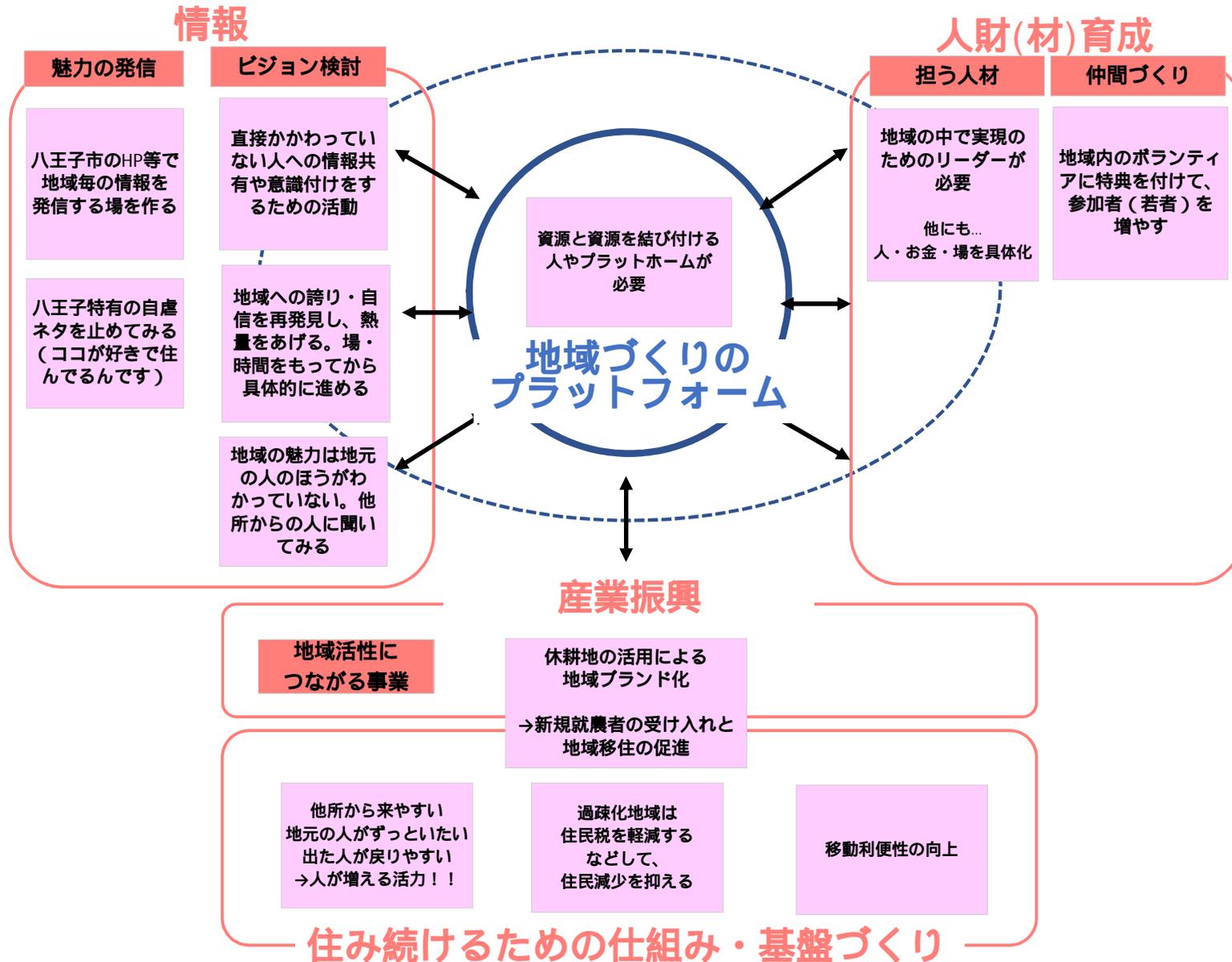
以上

第2回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループワーク 地域の将来ビジョン実現のために必要なこと

グループ①

凡例：参加者の
ふせん

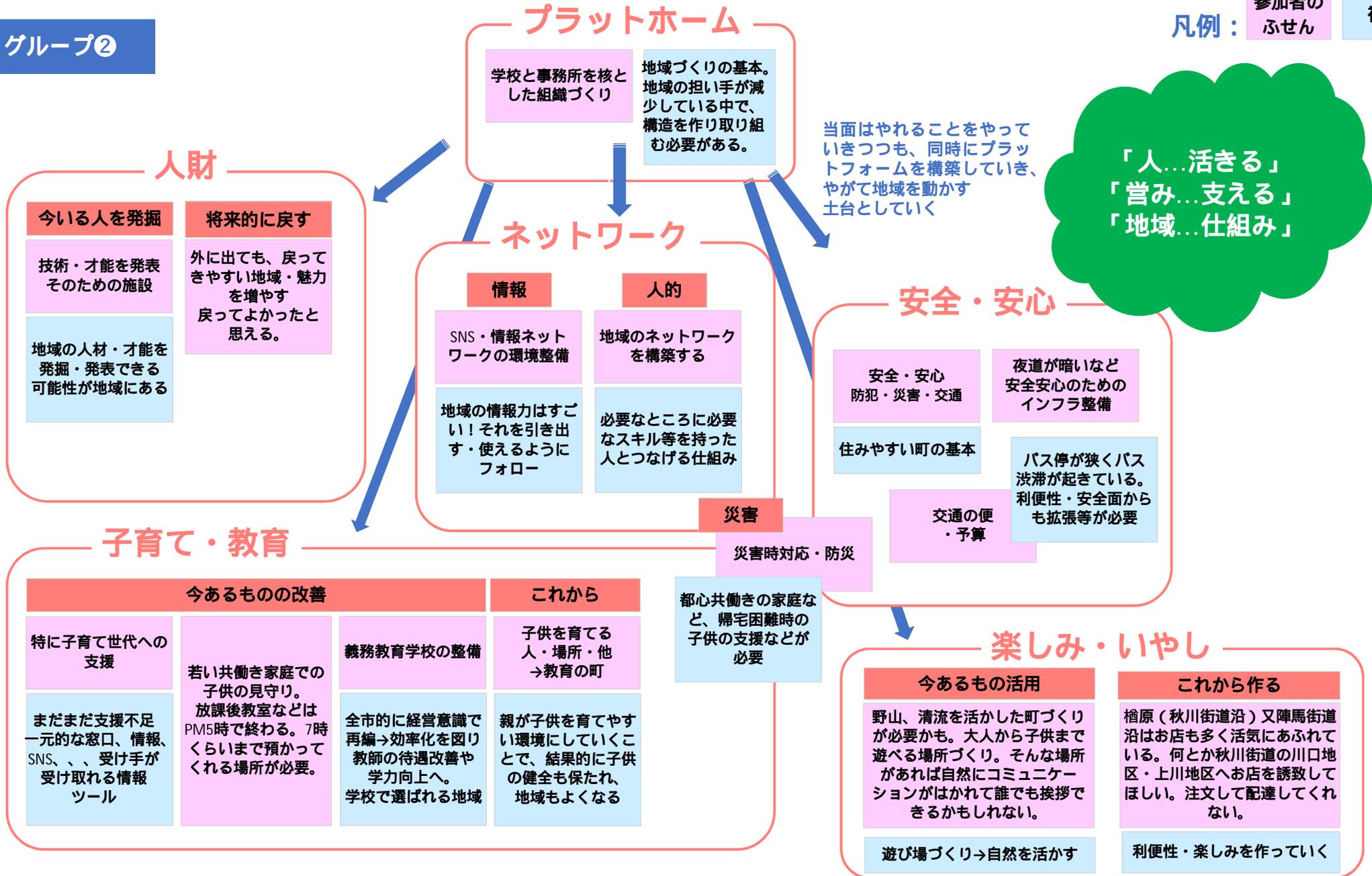


第2回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループワーク 地域の将来ビジョン実現のために必要なこと

グループ②

凡例：参加者のふせん 補足



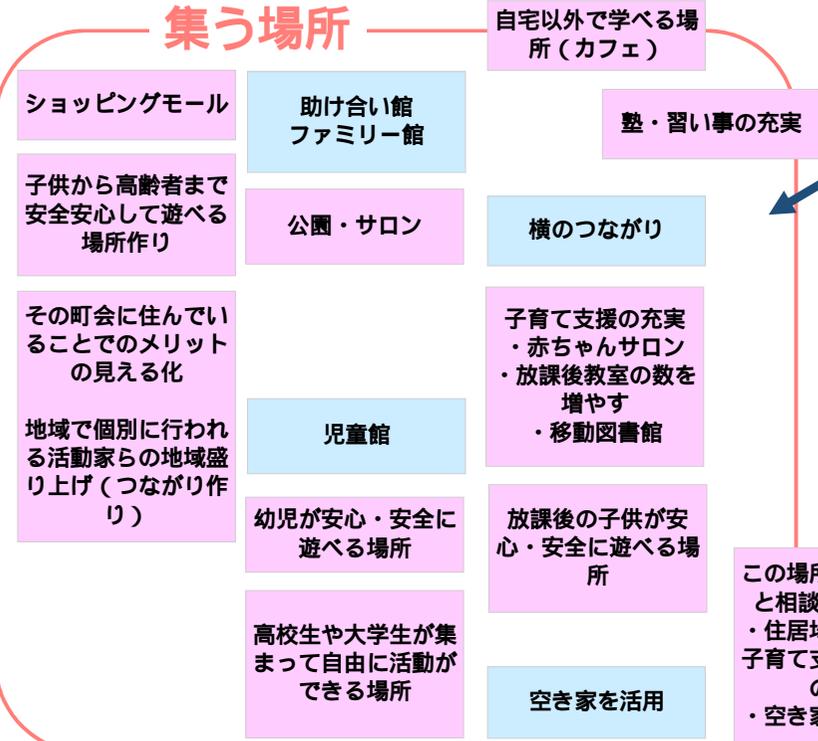
第2回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

グループワーク 地域の将来ビジョン実現のために必要なこと

グループ

参加者の
ふせん 補足

集う場所



近助（支えあい）

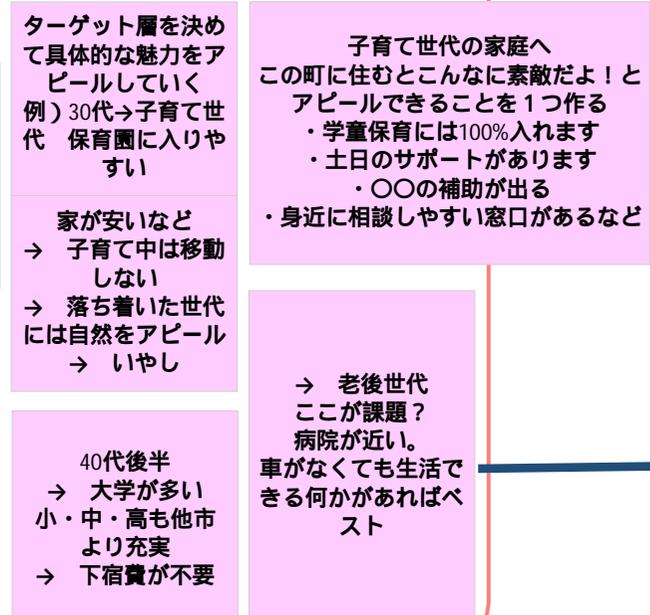
公助・共助・自助
プラス近助

パパやママが自分の時間を
楽しむサポート

子育て

住み続けられるまち

ターゲット=戻ってくる世代（30代）



実践・協働する組織

進める組織を作り実施して行く。時間をかけないで進める。
できるところから実施すること

具体的には実践する公の組織の設置
ビジョンはすでにそれぞれ持っているの、それを実行する部署が必要と思う
1つは市役所、1つは民営で共同事業とする

失敗したってOK

送迎



情報発信

